



エルム 創刊号

発行 / 医療法人 北榆会
 札幌北榆病院
 編集 / 広報委員会
 責任者 / 久木田和丘
 発行日 / 平成10年8月1日

“エルム”

発刊にむけて！

今、日本の医療は大きく変わろうとしています。高齢化社会を迎えて上昇し続ける医療費を少しでも少なくするために、入院を減らして、できるだけ外来で治療する方向に向かっています。また病院は治療を主体にした急性期病院と、どちらかという介護に重点をおいた慢性期病院に分けられるようになりました。しかし、患者さんにとって病気は急性も慢性も関係ありません。札幌北榆病院は急性期病院をめざしていますが、かかりつけ医や慢性期病院と連携を密にすることで、患者さんが継続した医療を受けられるように努めています。

さて、この度札幌北榆病院広報誌「エルム」が誕生いたしました。「エルム」は札幌北榆病院の一字「榆」の英語名です。北海道の榆の木は、早春、葉が開く前に小さな淡い緑色の花が咲くのでハルニレといいます。ハルニレはアイヌの言い伝えでは女神であり、また北欧には天地創造の神がハルニレに魂を吹き込み人類最初の女性が誕生したという神話があります。いずれも北国の広大な土地に枝をいっぱい広げ、堂々としたその姿に、神々しさを感じたものと思われまます。また、成長は早くひととき大きくなるので、広大な草原では道しるべとなつたに違いありません。最近の患者さんを見てみると、健康や病気の情報が氾濫しているため、病気のことや薬については知識も豊富ですが、病気とのおつき合いが下手な方が多くな

ってきたように思います。この広報誌が病気と上手につきあうための道しるべとして役に立つことを願っています。

札幌北榆病院々長 米川元樹

札幌北榆病院はこんな病院です。

札幌北榆病院は“高度先進医療を日常の診療に役立てる”ことを目指して昭和60年1月に開院いたしました。診療面の特徴は“癌”の早期発見、疾病の予防目的の人間ドック、人工臓器治療と移植治療をおこなっております。

当院には人工臓器治療センターがあり、腎不全に対する血液透析、重症肝臓疾患や難病に対する血液浄化療法等、色々な疾患に人工臓器を応用し、患者さんの病状の改善や生活の質（QOL）の向上に役立てております。

移植治療は、無菌治療室を設置して骨髄移植をすすめてまいりましたが、より多くの患者さんに対応できるように、設備を拡充して造血細胞移植センターを設立いたしました。

腎臓移植も積極的に行っております。

入院する患者さんにとって、病院は生活の“場”であり、快適に過ごしていただけるように最大でも4人室とし、さらに74室の個室も備えました。また、院内各部門が患者さんの療養生活を多面的にサポートしております。

札幌北榆病院は高度先進医療を積極的におし進めながら、同時に患者さんの権利を尊重しわかりやすい医療をめざしております。



札幌北榆病院の基本方針

- 1 患者さんに公正な医療を提供します。
- 2 患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います
- 3 患者さんの安全を保証し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
- 4 高度医療を積極的に推し進めます。

人工臓器治療センター

血液透析、これはこのテーマがテレビドラマに挙げられるくらい普及した腎不全に対する治療法です。日本でも30年位前よりようやく始められたこの治療はあっという間に広がり、現在この恩恵にあずかっている人は日本で17万人を越えています。

それまでは腎臓病が進行して末期の腎不全となればただ安静にして利尿剤で治療することくらいしか手がなく、腎臓の働きがゼロになれば、それで死亡されるのが普通でした。



今末期の腎不全になっても人工腎臓といわれる器械で治療を行うと20年、30年生きることにも不可能ではなくなってきました。当院では腎臓病が進行し末期に近くなってくると、透析を始められるよう内シャントといわれる小血管の手術を行います。

そこから1分間に200 mlの血液を管に流し出し、透析器でその血液をきれいにした上で再び体に戻すという治療ができるよう準備をします。そして、体の調子が悪くなり、食欲が落ちたり体がだるくなったり症状が出たら透析を始めます。血液透析は人工腎臓(ダイアライザーという)を用いて行うので、人工臓器の一つということになります。

人工臓器として我々の病院で行っている治療は数多くあります。リウマチではその病気に悪さをしている物質を血液から除去したり、肝臓が悪く毒性物質が増えるとそれを血漿交換といわれ

る方法で除去し、きれいな血液成分を入れたりしています。その他最近では腸の病気でも人工臓器による毒性物質の除去をしたり、非常に多くの病気にこの治療法が有用なことが判ってきました。

現在、血液透析患者さんは当院では240人程が定期で治療を受けておられ、リウマチ、劇症肝炎、腸の病気であるクローン病なども必要に応じて治療を行っているのが人工臓器治療センターの現状です。

人工臓器治療センター長 久木田 和丘

病院食にも季節の香り

入院生活のなかにも季節を感じていただきたいとの趣旨で始まりました“イベント食”。好評をいただいた前回の6月15日の神宮祭に引き続き、土用の丑の日に合わせておこなわれました。



前回開催の問題点を改善し夕方5時30分からイベントを実施いたしました。

利用していただいた方々からの感想は、

- ・次回も楽しみにしています。
- ・楽しい夕食に満足いたしました。
- ・とても忙しい思いをしてくださって

ありがとうございます。

など、好評をいただきました。次回は9月10日“縁日”をイメージして開催を予定しています。日頃行動が制限されている車椅子や松葉杖の患者さん、職員一同で応援いたしますので、食堂までお越しくださいますようお願いいたします。

そして、当日入院中の患者さんが初秋の“季節”を感じてくださればスタッフ一同幸いです。

編集後記：

札幌北楡病院の広報誌“エルム”創刊号をお届けします。私たちは発刊に当たって、広報誌の目的を「“高度先進医療を日常の診療に役立てる”という病院の目的を分かりやすく説明する」と規定しました。広報誌“エルム”が色々な意味で皆様の“道しるべ”となるように努めます。次号からは、より詳しく病院の施設や行事の紹介、わかりやすい医療情報など誌面の充実を図ってゆきたいと思っております。 [広報委員会]

医療法人北楡会札幌北楡病院

診療科目：外科・内科・眼科

整形外科・消化器科・歯科

麻酔科・放射線科

住所：札幌市白石区東札幌

6条6丁目5番1号

：011-865-0111